

氏名	中 井 肇
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 1821 号
学位授与の日付	昭和62年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者(学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	Studies of Specifically Allosensitized Lymphocyte-Mediated Injury of Isolated Canine Hepatocytes (分離イヌ肝実質細胞を標的細胞とした感作リンパ球による細胞障害作用の検討)
論文審査委員	教授 寺本 滋      教授 辻 孝夫      教授 木村郁郎

### 学位論文内容の要旨

移植肝は免疫学的に privilege であるといわれており、その拒絶のメカニズムは未だ明らかではない。しかし移植肝の拒絶反応において、Tcell-mediated cytotoxic response が重要な役割を果たしているということは推測できる。そこで我々は、リンパ球混合培養によりえられた感作リンパ球が、初代培養により単層形成した同種イヌ肝実質細胞を標的細胞として捕え障害できるか否かを、肝実質細胞蛋白合成への $[^3\text{H}]-1\text{-leucine}$ の取り込みにより検討した。その結果、感作リンパ球により肝実質細胞蛋白合成への $[^3\text{H}]-1\text{-leucine}$ の取り込みは、種特異的に著明に抑制されており、非感作リンパ球ではその抑制はみられなかった。CML の結果より、感作リンパ球中にはキラー細胞が誘導されていると考えられ、また特異的感作リンパ球を challenge されたイヌ肝実質細胞が、その単層の崩壊等の強い形態的障害を示していることなどから、特異的感作リンパ球による肝実質細胞蛋白合成の抑制は、キラー細胞による肝実質細胞の破壊によるものと考えられた。すなわち、その表面上に MHC 抗原の少ないとされる肝実質細胞もキラー細胞の target になりうると考えられ、移植肝拒絶反応において、肝実質細胞の障害にキラー細胞が重要な役割を果たしていると思われた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

## 論文審査の結果の要旨

本研究者は肝移植に関する実験的研究であるが、同種イヌ肝実質細胞を標的細胞として検討した結果、そのメカニズムがまだ明らかでない移植肝拒絶反応に関する重要な知見を得たものであって、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。